

令和4年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る
第2回地域連携コンソーシアム会議

令和4年11月16日(水) 13:30~15:30

県庁新館133会議室

次 第

(受付 13:15～13:30)

1 開会行事 (13:30～13:40)

- ①開会の言葉
- ②主催者挨拶(社会教育課長)

2 協 議 (13:40～15:25)

<全体会>13:40～14:20

(1)報告 事業実施状況について

モデル事業:①大分大学 ②県立青少年の家 ③千歳公民館

普及啓発・情報発信:県立図書館、県社会教育課

(2)報告 「障がい者の学びに関する実態およびニーズ調査」結果について

(3)説明および提案 「九州・沖縄ブロックコンファレンス」について

(休憩)

<分科会>14:30～15:20

第1分科会「県下で取組を普及させるための方策について」

第2分科会「調査結果を踏まえた講座・プログラムの開発について」

第3分科会「ボランティア・支援者の育成について」

<全体会>15:20～15:25

各分科会協議内容報告

3 閉会行事 (15:25～15:30)

- ①閉会の言葉
- ②諸連絡(事務局)

参加者名簿

【コンソーシアム委員】 ※敬称略

No	業態別	所 属	職 名	氏 名	分科会
1	学 校	国立大学法人大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター	教授	岡田 正彦	②
2		国立大学法人大分大学教育学部	教授	衛藤 裕司	①
3		大分県立大分支援学校	校長	清末 直樹	①
4		大分大学教育学部附属特別支援学校	校長	後藤みゆき	③
5	社 会 福	社会福祉法人大分県社会福祉協議会 あすぴあおおいた	所長	加藤 寿代	②
6	祉 関 係	大分県障害者社会参加推進センター	事務局長	高窪 修	①
7	団 体	社会福祉法人太陽の家 大分広域本部 健康支援課	課長	池部 純政	②
8	芸 術 文	おおいた障がい者芸術文化支援センター	センター長	横山 勝也	①
9	化・	大分県障がい者スポーツ協会	事務局次長	関 隆晴	欠席
10	ス ポ ー	ヨカたの	代表	松尾 卓也	③
11	ツ団体	レッツダンスでガッツ元気の会	主宰	麻生 和江	②
12	当事者 団 体	公益社団法人分県手をつなぐ育成会	会員	藤近さと子	③
13		NPO 法人自立支援センターおおいた	ジェネラルマネージャー	押切 真人	欠席
14			相談支援専門員	五反田法行	③
15		公益社団法人分県精神保健福祉会	会長	神田 弘法	③
16	企業 関係者	ソニー・太陽株式会社 人事総務部広報・CSR 室	室長	佐藤 祐親	②
17	行政 関係者	大分市教育委員会社会教育課	指導主事	工藤 幸子	③
18		別府市教育委員会社会教育課	社会教育主事	永尾 美保	①
19		県福祉保健部障害者社会参加推進室	主幹（総括）	関 隆晴	欠席
20		県教育庁特別支援教育課指導班	指導主事兼課長補佐 （総括）	岡本 崇	②
21		県教育庁社会教育課	課長	森山 貴仁	①

【社会教育関係者】

22	県教育庁	県立香々地青少年の家	指導主事	小俣 恵庸
23		県立図書館	副館長兼学校・地域支援課長	矢野 修
24		県立図書館	主任社会教育主事	黒木 哲也
25	豊後大野市	一般社団法人ここからプラス	代表理事	野中 浩一

【事務局】 県教育庁

26	県教育庁	社会教育課	主任社会教育主事兼課長補佐（総括）	馬場 尚登	①
27		社会教育課	指導主事	栗本 寛	
28		社会教育課	主任社会教育主事	首藤亜希子	
29		社会教育課	社会教育主事	太郎良将彦	③

**令和４年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る
地域連携コンソーシアム設置要綱**

令和４年５月２３日
大分県教育庁社会教育課長決定

（目的）

第１条 学校卒業後における障がい者の学びに対する支援の充実のため、関係者が連携し、本県の実態に応じた展開方策等について協議する組織として「地域連携コンソーシアム」（以下、「コンソーシアム」という）を設置する。

（所掌事務）

第２条 コンソーシアムは、以下の内容について協議を行うものとする。

- （１） 本県の実態に応じた事業の方向性と展開方策に関すること
- （２） ニーズに応じた学習・体験プログラムや講座等の実践や開発に関すること
- （３） 学びを支援する人材の育成や障がい（者）理解の促進方策に関すること
- （４） 本事業に係る情報の収集や提供に関すること
- （５） その他、本事業の推進に関すること

（委員）

第３条 コンソーシアムは、教育、福祉、労働等に関する機関・団体の代表者や有識者等、別表の委員をもって構成する。

２ コンソーシアムの委員の任期は、委嘱した日から当該年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

３ 委員は、大分県教育庁社会教育課長が委嘱または委任する。

（組織）

第４条 コンソーシアムに、座長、副座長を置く。

２ 座長は、コンソーシアムを代表し会務を総括するとともに、コンソーシアムの議長となる。

３ 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときはその職務を代理する。

４ 座長は委員の互選により選出し、副座長は座長が指名する委員をもって充てる。

（会議）

第５条 コンソーシアムは、大分県教育委員会社会教育課長が招集して運営する。

２ コンソーシアムは、必要に応じて、委員以外の者に関係者等の出席を求め、その説明または意見を聴くことができる。

（実施期間）

第６条 令和４年５月２３日から令和５年３月３１日までとする。

（事務局）

第７条 コンソーシアムに関する庶務は、大分県教育庁社会教育課において行う。

（その他）

第８条 この要綱に定めるもののほか、コンソーシアムに関し必要な事項は、座長がコンソーシアムに諮って定める。

附則 この要綱は、令和４年５月２３日から施行する。

2 協 議 (I)報告 事業実施状況について モデル事業：①大分大学

令和4年度大分県「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」 大分大学生涯学習講座「大学で学ぶ楽しさを発見しませんか」実施要項

1 趣 旨 (目 的)

障がい者の学びの推進の一環として、大学生涯学習講座を実施する。本講座は、知的障がいのある方を対象とし、気軽に参加できるスポーツを楽しみながら、学びのニーズや自己理解など大学ならではの内容について学べる講座である。知的障がいのある方が学ぶ機会を充実させる取組の初発的段階として、学びのニーズや講座の進め方などについて検討を行い、知的障がいのある方を対象とした講座のデザインのポイントや支援体制の構築などを行いつつ実施する。このため、本講座は、①学びのニーズや自己理解などについて学び協議する共通講座と、②気軽に体を動かすことを楽しむスポーツとの2本柱で実施する。

2 主 催

大分大学教育マネジメント機構、大分県教育委員会

3 期 日

令和4年11月12日、26日、12月3日、10日、24日

(各土曜日、10:00～12:00を基本として開催、第1回のみ9:30～12:00)

4 会 場

大分大学旦野原キャンパス(教養教育棟28号教室、27号教室、第3体育館など)

5 対 象

- ・高等学校あるいは特別支援学校高等部を卒業している方、特別支援学校高等部3年生の方
- ・療育手帳をお持ちの方
- ・プログラムの方針を理解し、学ぶ意欲がある方
- ・言語によるコミュニケーションをとる手段がある方
- ・実際的な読み書きの力がある方
- ・プログラムに対する家族の理解がある方
- ・期間中、土曜日の10時までに来られる方
- ・自力通学が可能な方

6 受講者募集

募集人員：5名程度(先着順。上記5の対象の要件を満たす方。)

受講料：無料(教材費、保険料を含む。講座会場までの交通費や講座での飲み物などについては自己負担)

募集方法：大分大学と大分県教育委員会のホームページ、大分県立特別支援学校等を通じた案内の配布

7 各回の講座内容

第1回 11月12日(土)「一緒に学ぶ仲間と知り合おう、学びの計画をしよう」

(会場：大分大学教養教育棟 28号教室、第3体育館)

9:30～10:00 開講式、講座についての説明、移動

10:00～11:00 リズムに合わせて体を動かしてみよう(ダンス体験1)

11:00～11:15 休憩・移動

11:15～12:00 自己紹介、学びのニーズ検討(共通講座)

第2回 11月26日(土)「大分大学のキャンパスを体験しよう」

(会場：大分大学教養教育棟 28号教室、第3体育館)

10:00～11:00 リズムに合わせてもっと体を動かしてみよう(ダンス体験2)

11:00～11:15 休憩・移動

11:15～12:00 図書館、大学生協など大学キャンパス体験ツアー(共通講座)

第3回 12月3日(土)「自らを知り、将来をイメージしよう」

(会場：大分大学教養教育棟 27号教室)

10:00～10:45 自己理解、将来のイメージと戦略のグループワーク(共通講座)

10:45～11:00 休憩

11:00～12:00 体を軽く動かしてみよう(太極拳体験1)

第4回 12月10日(土)「仕事、暮らし、学び、スポーツのこれからを考えよう1」

(会場：大分大学教育学部第1会議室)

10:00～11:00 体の動きをイメージしながら体を動かしてみよう(太極拳体験2)

11:00～11:15 休憩

11:15～12:00 仕事と暮らし、学び、スポーツの現状と今後を考えるグループワーク1(共通講座)

第5回 12月24日(土)「仕事、暮らし、学び、スポーツのこれからを考えよう2・修了式」

(会場：大分大学教養教育棟 27号教室)

10:00～11:00 体の動きをイメージしながら体を動かしてみよう(太極拳体験3)

11:00～11:15 休憩

11:15～12:00 仕事と暮らし、学び、スポーツの現状と今後を考えるグループワーク2(共通講座)
修了式

【担当】

大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田 正彦

TEL&FAX 097-554-7647(岡田研究室)

E-mail: extension@oita-u.ac.jp

大分県教育庁社会教育課 首藤亜希子

TEL: 097-506-5526 E-mail: shuto-akiko@pref.oita.lg.jp

大分県「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」大学講座運営状況報告

2022 年 11 月 15 日

基盤教育センター長

上白木 悦子

1. 受講者の状況

大分市内の特別支援学校を中心に、保護者の会や同窓会にも広報協力を依頼し、大分県教育委員会や大分大学のホームページを用いて広報を実施した。大分大学業務支援室にも参加を打診した。県内から 5 名の応募があり、4 名を受講者として開講した。

2. 学生ボランティアの状況

学内より、36 名の学生ボランティアの応募があった（経済学部 7 名、福祉健康科学部 21 名、理工学部 8 名）。

全 5 回の講座において、各回 8 名の学生ボランティア参加とした。1 名の受講者に対し 2 名の学生ボランティアがチームを形成し、活動・協議することを基本的なスタイルとして展開することを計画している。

第 1 回講座では、それぞれの学生ボランティアが受講者のニーズを踏まえつつよいコミュニケーションをとってくれたおかげで効果的にプログラムを進めることができた。

その反面、学生ボランティアがどのような役割を期待されて講座に関わるべきか明確でないという意見も出たので、今後の進め方を検討し事前に対応の方針などを情報共有するなど講座運営上の工夫を行う。

3. メンター（特別支援学校教員のボランティア）の状況

学生ボランティアがそれぞれのチームで直受講者とコミュニケーションをとりながら協議などを進める役割を担ってくれるのに対し、特別支援学校教員のボランティアには各チームの状況を見ながら学生ボランティアを支援し、講座全体の運営への支援をお願いしている。

メンター募集に対し、佐伯支援学校から 1 名、新生支援学校から 1 名の教員からの応募があった。

第 1 回講座では、お二人とも豊富な経験を生かして速やかに受講者との関係を作っていただき、有効な支援をしていただいた。コミュニケーションがとりづらい受講者に対する確な支援をしていただいたおかげで有効に講座を進めることができた。

また、第 1 回講座には教育学部の衛藤先生も出席して頂き、専門的見地からアドバイスをいただいた。

以 上

2 協 議 (1)報告 事業実施状況について モデル事業：②青少年の家

令和4年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る 「第1回かかぢワンデーキャンプ」実施要項

- 1 趣 旨 障がい者の生涯学習の推進の一環として、体験活動の拠点である県立青少年の家において県内の就労支援施設の利用者・職員を対象とした創作活動を実施することにより、障がい者の余暇活動の充実に寄与するとともに、主催側の障がい者理解や支援力の向上を図る。

(SDGs との関連)



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナリーシップで目標を達成しよう

- 2 主 催 大分県教育委員会

- 3 期 日 令和4年10月1日(土)

- 4 会 場 大分県立香々地青少年の家
〒872-1202 豊後高田市香々地5151 TEL: 0978-54-2096 FAX: 0978-54-2152

- 5 対 象 障がい福祉サービス事務所 高田みづほ園(豊後高田市呉崎760-7)
の就労者40名、職員5名

- 6 参 加 料 食費

7 日 程

時 間	内 容	場 所
9:00	みづほ園出発(バス)	
9:30	入所 開会行事	(くつ箱:別館) 研修棟創作室
9:40~11:30	創作活動「マイスプーン作り」	研修棟創作室
11:30~12:20	昼 食 (時間があれば自由散策)	別館視聴覚室 (アスレチックなど)
12:30	閉会行事 退所	集いの広場
13:00	みづほ園到着	

- 8 そ の 他 活動に伴う参加者の教材費・保険料は大分県が負担する

【担当】大分県立香々地青少年の家 小俣 恵庸
〒872-1202 豊後高田市香々地5151
TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152
E-mail omata-yoshinobu@pref.oita.lg.jp

「香々地青少年の家」利用アンケート

このたびは、「香々地青少年の家」をご利用いただき、誠にありがとうございました。

団 体 名 (高田みづほ園) 記載者名 ()
利 用 日 令和4年 (10) 月 (1) 日

(1) 今回来所した目的 (期待していたこと) があれば教えてください。

日頃と違う休日 (余暇) の過ごし方を考える。
事業所ではできない体験をする。

(2) 事前の打合わせは十分でしたか。5段階評価の数字に○をつけてください。

【 十分である (5) ← 4 — 3 — 2 → 1 十分でない 】

(3) 課題や活動の内容や難易度は適切でしたか。

【 適切である (5) ← 4 — 3 — 2 → 1 適切でない 】

(4) 「青少年の家」での活動によって、充実した余暇活動ができたと思いますか。

【 とても思う 5 ← (4) — 3 — 2 → 1 全く思わない 】

(5) 食事の内容 (献立・味付け・量 等) はいかがでしたか。

【 満 足 5 ← 4 — (3) — 2 → 1 不満 】

(6) 当青少年の家の職員の対応に関わる、全体的な満足度はいかがでしたか。

【 満 足 (5) ← 4 — 3 — 2 → 1 不満 】

(7) 利用者にとっての不便や今後に必要なと思う支援がありましたらお書きください。

障害の程度によってはほぼマンツーマンでの支援が必要な方もいる。活動内容によって支援者の人員確保が課題。特に、活動を選択していただく場合には人員配置を考えて計画する必要がある。

(8) 今後してみたい活動がありましたらお書きください。

プラネタリウム鑑賞

(9) その他、ご感想やご要望があればお書きください。

- ・自分で作った作品を持ち帰ることができ、自宅に戻ってから家族に見せたり、部屋に飾ったり楽しむことができていた。
- ・普段自発的に話をしない方や関わりをもたない方も作品作りを通して、コミュニケーションをとることができていた。

ご協力ありがとうございました。いただいた御意見を今後に生かします。

2 協 議 (1)報告 事業実施状況について モデル事業：②香々地青少年の家

令和4年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る

「第2回かかぢワンデーキャンプ」実施要項

- 1 趣 旨 障がい者の生涯学習の推進の一環として、体験活動の拠点である県立香々地青少年の家において県内の就労支援施設の利用者・職員を対象とした創作活動や体験活動を実施することにより、障がい者の余暇活動の充実に寄与するとともに、主催側の障がい者理解や支援力の向上を図る。

(SDGs との関連)



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナリープで目標を達成しよう

- 2 主 催 大分県教育委員会

- 3 期 日 令和4年11月7日(月)

- 4 会 場 大分県立香々地青少年の家
〒872-1202 豊後高田市香々地5151 TEL: 0978-54-2096 FAX: 0978-54-2152

- 5 対 象 多機能型事業所 スクラムサポート(中津市字新魚町1914番地の7・9)
就労者18名、職員9名

- 6 参 加 料 なし

- 7 日 程

時 間	内 容	場 所
9:00	宇佐リハビリセンター出発 (大型バス1台、緊急車両1台)	清流会本部 (宇佐市中原574-4)
10:00	入所・開会行事	研修棟創作室
10:10～12:00	創作活動「マイスプーン作り」	研修棟創作室
12:00～12:50	昼食・休憩(持ち込み弁当)	別館視聴覚室
13:00～13:50	体験活動「プラネタリウム鑑賞」	プラネタリウム館
13:50～14:00	閉会行事・退所	集いの広場
15:00	宇佐リハビリセンター到着・現地解散	清流会本部

- 8 そ の 他 活動に伴う参加者の教材費・保険料は大分県が負担する

【担当】大分県立香々地青少年の家 小俣 恵庸
〒872-1202 豊後高田市香々地5151
TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152
E-mail omata-yoshinobu@pref.oita.lg.jp

「香々地青少年の家」利用アンケート

このたびは、「香々地青少年の家」をご利用いただき、誠にありがとうございました。

団 体 名 (スクラムサポート)

記載者名 ()

利 用 日 令和4年 (11) 月 (7) 日

(1) 今回来所した目的 (期待していたこと) があれば教えてください。

スクラムサポートの行事活動の一つとして

(2) 事前の打ち合わせは十分でしたか。5段階評価の数字に○をつけてください。

【 十分である 5 ← 4 — 3 — (2) → 1 十分でない 】

(3) 課題や活動の内容や難易度は適切でしたか。

【 適切である (5) ← 4 — 3 — 2 → 1 適切でない 】

(4) 「青少年の家」での活動によって、充実した余暇活動ができたと思いますか。

【 とても思う 5 ← (4) — 3 — 2 → 1 全く思わない 】

(5) 食事の内容 (献立・味付け・量 等) はいかがでしたか。

【 満 足 5 ← 4 — 3 — 2 → 1 不満 】

(6) 当青少年の家の職員の対応に関わる、全体的な満足度はいかがでしたか。

【 満 足 (5) ← 4 — 3 — 2 → 1 不満 】

(7) 利用者にとっての不便や今後に必要なと思う支援がありましたらお書きください。

階段が多かったので、移動に時間がかかった。当事業所ではそれほど移動が困難な方は多くないが、スロープや手すりの設置など検討した方が良いと感じた。

(8) 今後してみたい活動がありましたらお書きください。

・屋外での活動

(9) その他、ご感想やご要望があればお書きください。

初めて香々地青少年の家を利用させていただきましたが、多くの利用者様から楽しかったと好評をいただきました。特にプラネタリウムは癒された・綺麗だった・説明が分かりやすかったなど多くの利用者様が言われていました。職員の方々の接し方も良く、皆様安心して利用できたと感じています。時間が短かったので、次回利用できるのであれば滞在時間をもう少し長くしたいと感じました。反省点としては、細かな打ち合わせが出来なかった点が挙げられます。もう少し連絡を密にしていこうが必要だと思います。ありがとうございました。

秋のここのえ ワンデーキャンプ

1 趣旨 障がい者の生涯学習の推進の一環として、体験活動の拠点である県立青少年の家において県内の就労支援施設の利用者・職員を対象とした創作活動や体験活動を実施することにより、障がい者の余暇活動の充実に寄与するとともに、主催側の障がい者理解や支援力の向上を図る。

2 主催 大分県教育委員会

3 期日 令和4年11月19日(土)

4 会場 大分県立九重青少年の家
〒879-4911 玖珠郡九重町大字田野 204 番地 47
TEL: 0973-79-3114 FAX: 0973-79-3115

5 日程

時間	内容	参加
9:00	日田駅出発(バス)	
10:20	入所 開会行事	全員
10:30～ 11:30	活動 ・おにぎり山ハイキング ・軽スポーツ(ペタンク) ・工作(バードコール製作)	希望に応じて選択
11:30～ 12:20	昼食 (時間があれば自由散策)	
12:30～ 13:30	プラネタリウム 退所	全員
15:00	日田駅到着	

6 参加費 食費

7 その他 活動に伴う参加者の教材費・保険料は県が負担

ひょうたんカレッジ =生涯を通じた障がい者の学び支援モデル公民館委託業務=

- 1)関係機関協議
 - 社会教育課・社会福祉課・ここからプラスで打合せ
 - 社会教育課・社会福祉課・ここからプラス・自立支援協議会役員で打合せ
- 2)自立支援協議会
相談・意見
 - 障がいの分野・状況が多岐にわたる。対象を絞った取り組みが望ましい
 - 取り組みの理由を明確に、コンセプト等を決めて推進した方がよい
 - みだしなみ、礼儀作法、金銭感覚の学びなどが必要
 - 実態としては「趣味がない」「出会いがない」という課題もある
 - 福祉施設などでは開催に向けて制限がある
 - 公民館などの施設で行うことが望ましい
 - 施設利用者を対象とした取り組みが望ましい
 - 土日曜日などの開催がよいのでは
- 3)事業協力者への
説明・募集等
 - 地域の方へ周知……千歳地区社協会会議にて依頼 5 月
 - ……団体への協力依頼 6 月～
 - 施設・作業所 ……自立支援協議会へ協力依頼 6 月以降
 - 協力者募集 ……関係団体へ内容説明に伺う 8 月～9 月
 - 研修会開催 ……事業1回目を位置づけて開催 10月4日
- 4)参加希望者の
周知・募集対応
 - 自立支援協議会の会議等を通じて、作業所関係者には実施紹介を行う
 - 豊後大野市出身の支援学校卒業生
 - … 竹田支援学校 → 卒業生に案内文書発送 9 月上旬
 - 回答状況 発送:73 = 回答:11 未回答:54 返送:8(宛先不明)
 - 回答内容 回答:11 = 参加希望等:4 不参加:7
 - ※不参加理由: 施設入所・交通手段・仕事が休めない・支援が必要
 - 豊後大野市内の作業所へ募集依頼 9 月上旬～
 - … 登録状況 依頼:14 = 参加:2 登録希望12
 - ※参加作業所は、支援員同行・送迎を含めた支援できている
- 5)参加者確認
 - 登録者受付
 - ①案内を配布 希望者の募集・アンケート用紙送付、登録を受付ける
 - ②登録者の確定 希望者等の情報を確認し登録
 - 参加者募集
 - ①講座の案内送付 登録者に対し案内を発送
 - ②電話連絡にて、参加者確認を行う
- 6)事業実施イメージ

進行調整は公民館職員

13:30	事前打合せ …	受付、体調確認等を分散して実施
14:00	講師等案内 …	講座開始・講師紹介(司会・進行)
	講座 ①	
		休憩
	講座 ②	
16:00	謝金等対応	終了後、簡単なアンケート実施 片づけ 職員・協力者等できる方で対応

2 協議 (1) 報告 事業実施状況について モデル事業:③豊後大野市千歳公民館

7) プログラム ○障がい者の課題、社会的学習ニーズ候補から、できるだけ容易に取り組める内容を検討し、素案作成。社会教育課・ここからプラスで確認決定

令和4年度

No.	テーマ	時 期	内 容
1	相互理解講座	10月 4日	協力者対象の講座として、接し方なども学習 大分障がい者芸術文化支援センター 参事 吐合 紀子 氏 絵手紙講師(障がいのある方) 原野 彰子 氏
2	オリエンテーション	10月 25 日	アイスブレイク 卓球バレー・ボッチャ教室 あすぴあおおいた 卓球バレー講師 佐藤 貞子 氏 あすぴあおおいた ボッチャ講師 渡邊 法子 氏
3	生活課題と癒し	11 月 29 日	お金についての学び キッズマネースクール講師 篠崎 美保 氏 癒しの音楽鑑賞 琴奏者 廣末 弥生 氏他
4	工作・おやつづくり	12月20 日	季節の工作(正月飾り) 折り紙教室講師 安部 悦子 氏 おやつ作り(じりやきづくり) 地域ボランティアグループ すみれ会 河野八重子氏他
5	新しい学び	1月23日	スマホ教室 橋本書林 講師・助手計3名 ドローン体験教室 BUILD OITA (豊肥地区関係者対応)10 名程度

10月2日「オリエンテーション」 卓球バレー・ボッチャ教室から



アンケートから

「ひょうたんカレッジ」で取り組んでみたいことがあれば教えてください。

- ・婚活／料理教室／おやつづくり
- ・とても楽しく参加させていただきました。利用者さんの笑顔が見れて良かったです。
- ・ズンバ／化粧教室
- ・料理／陶芸／カラオケ大会／ピザパーティー／ダンス／個人で仕事をするやり方 (個人事業種になる手続きとか)／またスポーツしたい
- ・料理がしてみたいです
- ・カラオケ
- ・今回のようなスポーツ。積極的に参加したい。
- ・頭を使ったり、料理教室等／運動等
- ・ギター／卓球バレー／クッキー／ダンス
- ・料理教室

事業報告

令和4年度 大分県公民館テーマ別研修会①

日時：令和4年7月14日(木) 10:00~15:20

会場：大分県立図書館視聴覚ホール 参加者：31名(10市町)

<研修趣旨>

共に学び生きる「共生社会」の実現に向け多様な取組の必要性が認知されており、生涯を通じた障がい者の学びを支援するために公民館が果たす役割について、事例に学ぶとともに実践的な知識・技術の習得を図ることにより公民館職員としての資質の向上を図る。

<研修内容>

○報告『『やさしい日本語』の普及事業について』

報告者 大分県立図書館 学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也

「やさしい日本語」の必要性和「やさしい日本語」のポイントについて確認し、これまでの「外国人とのコミュニケーション拡大事業」の経過を報告した。公民館事業として「やさしい日本語」を地域に普及するための取組において、日本人と外国人が安心して暮らせる地域社会の実現に向け、わかりやすく簡単にし、て(易しく)相手を思いやって(優しく)伝えることの大切さを報告した。

○講義「大分県における障がい者の学びの現状と課題」

講師 大分県身体障害者福祉センター 副所長 吉川 広明 氏

大分県身体障害者福祉センターの施設概要、事業概要、利用状況をはじめ、センター主催の教室や大会について、その具体的な様子や受講者の状況を整理して説明いただいた。特に、受講者のニーズや課題等を提示され、公民館で障がい者を対象とした講座を開催する時の留意点について、多くのご示唆をいただいた。

○講義「秋田県・障害者の生涯学習支援モデル事業」

講師 秋田県能代市中央公民館 事業係長 佐藤 邦彦 氏

秋田県の障害者の生涯学習支援モデル事業における能代市中央公民館の取組について、多くの講座を例にして、内容や参加者の内訳、講師や障がい者への配慮等について具体的に説明していただいた。特に、実践を踏まえて示された成果と課題、事業継続のポイント等により、県内の公民館で障がい者の生涯学習の事業の開催に向け、多くの示唆と実施意欲を喚起していただいた。

2 協議 (1) 報告 事業実施状況について 普及啓発(県立図書館)

〇ワークショップ

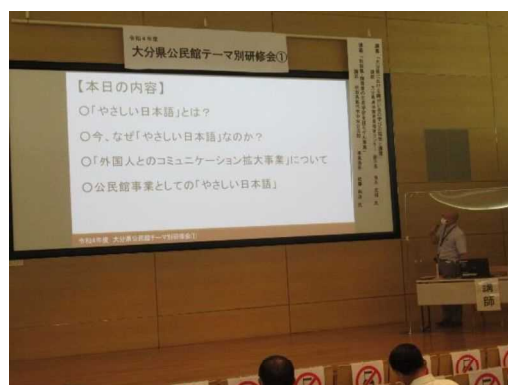
「公民館活動による障がい者の学び支援 ～公民館の講座(計画)を作ってみよう～」

助言者 秋田県能代市中央公民館 事業係長 佐藤 邦彦 氏

新型コロナウイルス感染防止対策のため、時間を短縮しグループワークではなく、ワークシートを使って、障がいがある方もない方も「誰でも参加できる」講座について個人で検討した後、発表し情報交換を行った。



【主催者あいさつ】公民館連合会事務局次長県社会教育課 馬場課長補佐兼主任社会教育主事



報告：「『やさしい日本語』の普及事業について」

報告者：県立図書館 学校・地域支援課 黒木主任社会教育主事



講義：「大分県における障がい者の学びの現状と課題」

講師：大分県身体障害者福祉センター

副所長 吉川 広明 氏



講義：「秋田県・障害者の生涯学習支援モデル事業」

講師：能代市中央公民館 事業係長 佐藤 邦彦 氏



質疑・応答

講義：「秋田県・障害者の生涯学習支援モデル事業」

2 協議 (I) 報告 事業実施状況について 普及啓発(県立図書館)



ワークショップ
「公民館活動による障がい者の学び支援
～公民館の講座(計画)を作ってみよう～」
ファシリテーター：県社会教育課 太郎良社会教育主事



発表
ワークショップ
「公民館活動による障がい者の学び支援
～公民館の講座(計画)を作ってみよう～」

<参加者感想>

- 障がい者の生涯学習についての現状や様々な取組を知り、とても参考になりました。今回学んだことを今後に生かしていきたいです。
- 本日の研修は知らない事も多く、具体的な実践から、これからの取り組む教室に参考になるものばかりでした。
- 地域住民の学びの場、公民館に障がい者が抜け落ちていた事に気づかされました。研修を通して特別扱いではなく、できる範囲で、公民館で障がいがある方が楽しく学べたらと思いました。
- 障がい者の方への公民館講座、具体的にお話をいただき、大変勉強になりました。私たちの町ではどんなことができるだろうか。何からはじめたらよいだろうか、果たして来てくれるだろうか、いろいろ考えます。でも、先ず帰って公民館のみんなに話してみようと思います。
- 感覚的にハードルが高い取組と思っていましたが、行動や活動の目線を下げて、平易でできることから着手することが大事だと思います。
- 障害は社会側にある「社会モデル」の考え方から、障害は個々に持っているものではなく「ある」、障がいの「ある」人と表現した方がよいのではないかと思います。
- コロナの急増の中で、ZOOM や延期があってもよかったのでは？

事業報告

令和4年度 大分県公民館テーマ別研修会②

日時：令和4年9月16日(金) 10:00~15:50

会場：大分県身体障害者福祉センター 大分県母子・父子福祉センター

参加者：26名

<研修趣旨>

共に学び生きる「共生社会」の実現に向け多様な取組の必要性が認知されており、生涯を通じた障がい者の学びを支援するために公民館が果たす役割について、事例に学ぶとともに実践的な知識・技術の習得を図ることにより公民館職員としての資質の向上を図る。

<研修内容>

○報告 「『市町村のICT環境』に関する調査について」

報告者 大分県立図書館 学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也

- 1 国の動向と市町村のICT環境に関するアンケート結果について説明
- 2 今後、職員のICT活用能力向上のための研修、ICT環境や関連機器を整備し、幅広い住民を対象とした講座・事業の実施が求められる。

○演習 「障がい者スポーツを体験しよう」

～ボッチャ・卓球バレー・フライングディスク～

講師 ボッチャ ボッチャ大分代表 渡邊 法子 氏
卓球バレー 大分県卓球バレー協会公認指導員 佐藤 貞子 氏
フライングディスク 大分県障害者フライングディスク協会
事務局 森田 ますみ 氏

- 1 3つの障がい者スポーツを実際に体験し、楽しさや難しさを感じる機会となった。
- 2 各講師から、ルールや実施する際の注意点について楽しく解説していただいた。

○講義 「公民館が行う知的障がい者支援講座」(zoom対応)

講師 NPO法人 ぷろじぇくとplus 相談スペース ポッシュ
相談支援専門員 足立 志津子 氏

- 1 知的障がい者オープンカレッジの取組の18年間の歩みと成果・課題について解説
- 2 具体的な各講座のテーマや内容やサポーターの活用や取組の工夫について紹介
- 3 障がいのある人の生涯学習支援は、障がい福祉とのコラボ、スタッフや講師の発掘を大事にして継続することが成功の鍵となる。

○ワークショップ「公民館活動による障がい者の学び支援～公民館講座(計画)を作ってみよう」

ファシリテーター 県教育庁社会教育課 社会教育主事 太郎良 将彦

- ・ 4人班に別れ、実際に講座を開設するために企画・計画を立て、全体に発表し交流した。

2 協議 (1) 報告 事業実施状況について 普及啓発(県立図書館)

【演習】「障がい者スポーツを体験しよう」



卓球バレー 大分県卓球バレー協会公認指導員
佐藤 貞子 氏



ボッチャ ボッチャ大分代表
渡邊 法子 氏



講義「公民館が行う知的障がい者支援講座」(zoom 対応)
講師 NPO 法人 ふろじえくと plus 相談スペース ポッシュ
相談支援専門員 足立 志津子 氏



質疑・応答

＜参加者感想＞

- 実際に障がい者スポーツを体験することができて、楽しさや難しさを感じることができました。
- ボッチャ、卓球バレー、フライングディスク等、自分が楽しくできたので、是非、機会があれば広げたいと考えました。
- 足立さんの熱い思いがとても伝わってきました。いつでもどこでも誰もが学ぶ機会を持つことができるように、そして生きがいを持ったり、幸せに感じる体験ができるような取組を考えてみたいと思いました。
- 中でも印象に残ったのは、皆で共感し、楽しむということです。ありがとうございました。
- ワークショップは4人での話し合いでそれぞれの知恵を出し合い、よい計画が立てられたと思う。
- 障がいのある方と交流を深めたいと思いがつのりました。
- 現状を踏まえ、基本的又は最新の情報を捉えた研修をお願いします。初めて参加しましたがよかったです。

事業報告

外国人とのコミュニケーション拡大事業 県立大分南高等学校福祉科との連携事業	
「やさしい日本語」講演会	令和4年7月13日(水) 13:25~15:15 福祉科2年生70名
「やさしい日本語」交流会	令和4年9月8日(木) 10:30~12:20 福祉科3年生69名、立命館アジア太平洋大学国際学生10名

<研修趣旨>

県内在住外国人と地域住民とのコミュニケーションの拡大を図るため、社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組を推進する。

県立大分南高等学校福祉科の生徒を対象とした「やさしい日本語」の学習や交流活動に取り組むことにより、幅広い世代への普及を促進するとともに、福祉分野での活用の有用性に気付かせる。

<研修内容>

①「やさしい日本語」講演会(7月13日)

○講義:『やさしい日本語』というコミュニケーション~多文化共生社会の日本語を考える

講師:立命館アジア太平洋大学言語教育センター長 本田 明子 教授

講演会に参加した2年生は、ほとんどの生徒が「やさしい日本語」について「知らない」という状況でした。しかし、本田教授の講義をとおして、その有効性と必要性を感じていました。

また、外国人とのコミュニケーションだけでなく、将来多くの生徒が福祉関係の職に就く予定であり、お年寄りや子ども、障がいのある人とのコミュニケーションにも有効である、と気づくことができました。

②「やさしい日本語」交流会(9月8日)

○演習:『やさしい日本語』を使った、外国人との交流

講師:多文化共生マネージャー 森川 寿子 氏

助言:立命館アジア太平洋大学言語教育センター長 本田 明子 教授

補助:「やさしい日本語」サポーター 阿部 健二 氏、廣田 雅代 氏

交流会に参加した3年生は、半数近くが「やさしい日本語」について知っていたり、自分たちで調べて学習したりしている状況でした。実際に外国人と会話をする中で「やさしい日本語」の難しさに気付き、自分たちが当たり前に使っていた日本語の難しさ、相手にわかりやすく伝えることの難しさに気付くことができました。

「やさしい日本語」の有効性・有益性・必要性を実感することができました。

2 協議 (1) 報告 事業実施状況について 普及啓発(県立図書館)

【事業のようす】

◎「やさしい日本語」交流会



◎「やさしい日本語」交流会



<参加者感想>

【「やさしい日本語」講演会】

- 自分がイメージしていた「やさしい日本語」とは違った。もっと難しく、もっとわかりやすいものだった。
- これから、外国人と話すことが多くなり、「やさしい日本語」を使うことが多くなると思うので、学習したことをしっかり活用し、「はさみ（はっきりと さいごまで みじかく）の法則」を守っていきたいと思った。
- 外国人から見ての気持ちや心情を初めて知ることができた。外国人を気づかって英語を使うのではなく、「やさしい日本語」を使うことが大切だと思った。
- 緊急時、外国人が、私たちが普段話している日本語では伝わらないことを初めて知った。一番伝えたいことは何か、を考え、自分で工夫して話すべきだと思った。
- 今まで「やさしい日本語」は、漢字を平仮名に直すだけでよいと思っていたけど、日本人独特の「空気」を文字に起こすことが大切だとわかった。
- 外国人だけでなく、認知症の方や障がいのある方にも「やさしい日本語」は使えると思った。

【「やさしい日本語」交流会】

- 実際に外国人と関わり、「やさしい日本語」で伝えることは難しいと感じた。
- 私たち日本人が「常識」と思っていることが常識ではない、それを伝えるのが難しかったが楽しかった。
- 今回交流してみて、「やさしい日本語」を使うことで、お互いに楽しく会話できると思った。文化の違いを理解して関わるのが大切だと思った。
- 自分が「やさしい」と思っているけど伝わりにくいことがあって難しかった。
- 文章に書いてあることの先の行動を伝えてあげないといけないことがわかった。
- 私はずっと日本で育ってきたので、日本語について難しいと思う機会が日常生活の中で少ない。留学生のみなさんは、文化の違い、言葉の違いなど様々な違いをとおして混乱することが多いと思った。介護現場などにも外国人スタッフがいると思うので、「やさしい日本語」は今後に活かすことができると思った。

2 協 議 (1)報告 事業実施状況について 情報発信:県社会教育課

①障がいがある方の学びについての情報専用サイト「かたろうえ大分」を開設

「イベント一覧」「団体一覧」「国や県の取り組み」「リンク集」を掲載。

<閲覧者数> 187名(11月15日現在)

<課題>

- ・ホームページのユニバーサル度がまだ不十分・・・ルビ振り機能、読み上げ機能は来年度追加する。
- ・情報収集・・・コンソーシアム委員、特別支援学校を通じて収集しているが、なかなか集まらない。

(特にイベント情報、団体情報)

<お願い> 情報提供を引き続きお願いします。

また、団体やイベントのご紹介もお願いします。

②県内特別支援学校への出前授業・・・R5/1～ 3校(予定)

(2) 報告「障がい者の学びに関する実態およびニーズ調査」結果について

別添 報告書および概要版参照

(分析) 学びについてのニーズについて(↑は、「数値が実態より上がっている」という意味)

質問項目	実 態	ニーズ(当事者)	ニーズ(保護者・支援者)	分 析
学びの場	自宅(テレビ、インターネット)、福祉サービス事務所、学校 (報告書 P8)	社会教育施設(公民館、図書館等)、民間講座や教室 ↑ (報告書 P13)	同窓会、職場、社会教育施設が当事者に比べて高い (報告書 P24)	オンライン学習とともに自宅以外の場での学習の需要も高い。
学びの内容	レクリエーション、スポーツ、仲間づくり (報告書 P6, 概要版 P2)	「個人生活・社会生活に必要なスキル」↑ (報告書 P12, 概要版 P3)	「社会生活に必要なスキル」が 49.1% と高い (報告書 P21, 概要版 P5)	スキル向上に資する講座の開発・実施が必要
学びに必要なもの		仲間や相談相手 活動に関する情報 (報告書 P17, 概要版 P3)	会場までの送迎 指導者、ボランティア (報告書 P26, 概要版 P5)	それぞれのニーズに応える工夫が必要

注)

個人生活に必要なスキル・・・料理、栄養、医学・健康法、裁縫、編み物、家庭生活、防災・防犯、介護、幼児教育など

社会生活に必要なスキル・・・金銭の管理、契約、資格や免許に関すること、税や社会保障、政治、法律、ボランティア

活動のために必要な知識、集団生活でのルール、マナー、IT スキル、情報モラル

(以上はアンケート中に挙げた例です)

※障がい種、市町村、年代等に応じたクロス集計結果は、後日お知らせします。

(3) 九州・沖縄ブロックコンファレンス(実践交流会)について

テ ー マ:「かたろうえ大分～生涯を通じた障がい者の学び支援コンファレンス～」

日 時:令和5年2月4日(土)13:30開会 ～17:00閉会(予定)

会 場:別府市公会堂 市民会館(2・3階)大ホール

実施形式:参集と配信のハイブリッド形式

目 的:障がい者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障がい者の生涯学習活動に関する研究協議等を行うことで、障がい理解の促進や、支援者同士の学び合いによる「学びの場の担い手の育成」「学びの場の拡大」を目指す。

対 象:障がい者本人、学びの支援者・関係者、障がい者の学びに関心のある人など

⇒九州各県・市町村職員(障がい者学習支援担当、生涯学習、学校教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等)、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障がい者の学習支援実践者(NPO等)、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員 等

内 容(案) 他県のチラシ参照

<開会行事> 県内活動団体によるパフォーマンス、主催者挨拶

<行政説明>文部科学省担当者、県担当者

<シンポジウムまたは講演>「いつでも・どこでも・誰でも学べる社会を目指して」(仮題)

<実践発表>(例) ・県外事例 ・大分大学生涯学習講座
・香々地・九重青少年の家 ・豊後大野市千歳公民館
・その他県内事例

<閉会行事>

※コンソーシアム委員の皆様をお願いしたいこと

○当日のご参加(第3回コンソーシアムと兼ねます)

○パネリスト ○オープニングのステージ発表 等

<第4回地域連携コンソーシアムについて>

期日:令和4年2月22日(水) 午後

内容:令和4年度事業の総括、来年度の展開案

【主催】秋田県教育委員会 文部科学省

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

障害の有無にかかわらず誰もが共に学び、生きる共生社会の実現、地域における障害者の生涯を通じた学びの場の整備を目指し、秋田県の関係者が、障害者の生涯学習についての基本的な考え方や先進事例を共有する集まりです。どなたでも参加できます。

日時 令和4年8月24日(水) 午後1時から午後4時まで

参加方法 Web会議システム「Zoom」での参加
※インターネット受信環境を整えていただくことで、パソコン・タブレット等による参加が可能です。

日程

開会行事 13:00～13:30	・行政説明 文部科学省障害者学習支援推進室
取組紹介 13:30～14:20	テーマ「“やってみたい” “学びたい” 気持ちを引き出す私たちの取組」 ※AグループとBグループどちらかを選択してください。 Aグループ 【こうやってできた！楽しい学び場】 ○大館市教育委員会生涯学習課（大館市） ○北秋田市障がい者支援センターささえ（北秋田市） ○湯上天王つくし苑（湯上市） Bグループ 【こんなことやっています！楽しい学び場】 ○秋田大学（秋田市） ○複合施設ばあとなあ（湯沢市） ○秋田すずめの会（秋田市）
講演 14:30～15:50	「障害者の学びと楽しみの場を地域に広げ、続けていくために」 和歌山大学教育学部特別支援教育 教授 山崎 由可里 氏 

参加申込みは、別紙「参加申込書」で（お電話での申込みもできます）
【申込み・問合せ先】秋田県教育庁生涯学習課 Tel 018-860-5184 / FAX 018-860-5816

文部科学省委託事業
共に学び、生きる共生社会コンファレンス近畿 B ブロック
&
ゆめ・やりたいこと実現センター 2022 年度 報告会

学び合うそして創り合う

2022 年 12 月 7 日 水 ONLINE

第1部 共に学び、生きる共生社会コンファレンス

13:00～	オープニング ゆめ・やりたいこと実現センター トラムサークル受講生による発表 文部科学省より趣意説明	(10分) (10分)
13:20～	和歌山県下の生涯学習に取り組む団体からの発表 ・ふれあい文化祭について みたばね福祉会（田辺市） 理事長 米川 徳昭さん ・みんなの思いから テンチャツアート展を通して ころん（田辺市） 理事長 小川 麻美さん ・陸上競技の取り組みを通して いなほ作業所（新宮市） 平澤 学さん	(15分) (15分) (15分)
14:05～	和歌山県の生涯学習について 和歌山大学 教授 山崎 由可里さん	(15分)
14:20～	障害者の生涯学習の取り組みを学ぶ 「ライフワイドの視点で楽しく生涯学習 —今の生きがいを地域で生涯にわたり繋ぐ—」 鳥取短期大学幼児教育保育学科 教授 國本 真吾さん（録画放映）	(15分)
15:20～	質疑応答	
15:30	終了	

第2部 ゆめ・やりたいこと実現センター報告会

16:00～	ゆめ・やりたいこと実現センター参加者による報告 ・ボランティア・講師・紀の川市職員による報告 ・質疑応答 ・コンファレンスと報告会のまとめ 和歌山大学名誉教授 堀内 秀雄さん	(30分) (25分) (15分) (15分)
17:25	終了	

オンライン開催



申し込み
○申し込みフォーム (QRコード / 下記 URL)
よりお申し込みください。
◆記録が必要な方は、お申込の際に必ずお知らせください。(11月21日月曜日)

<https://forms.gle/HWrsL3o8vpcVVGs>

申込メット
2022 年 12 月 1 日 木

対象
障害者の学びに関心がある方 都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館等社会教育施設職員、特別支援学校教職員、障害者の生涯学習実践者（NPO 法人等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等

※個人情報：本コンファレンス開催についてのみ利用し、個人情報保護法の適宜に則り、適切に取り扱います。

主催：社会福祉法人一妻会（妻の郷）ゆめ・やりたいこと実現センター／文部科学省
住所：和歌山県紀の川市粉河 853-3 Tel/Fax：0736-60-8233
メール：yume-yaritalkoto.center@gmail.com URL：<http://yume-yaritalkoto.jp.org>
協力：NPO 法人エルシエティオ

<メモ>